



〔海の状況 (6/16 ~ 7/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 6月中旬から6月下旬にかけてかなり高め(±1.0℃~1.5℃)から平年並み(±0.5℃)で推移し、7月上旬から7月中旬にかけてはなはだ高め(+1.5℃~2.0℃)で推移した。
- ・米ノ地先の表面水温… 6月下旬から7月中旬にかけてかなり高め(±1.0℃~1.5℃)からはなはだ高め(+1.5℃~2.0℃)で推移した。

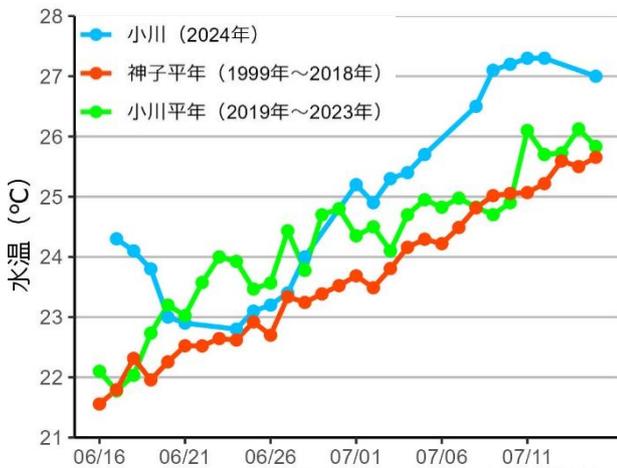


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移



図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：6月〕

6月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布について、水深50mの10℃~12℃の範囲と水深100mの6℃~10℃の冷水域の張り出しは昨年と比較して大きく、やや離岸で経過した。(図3)

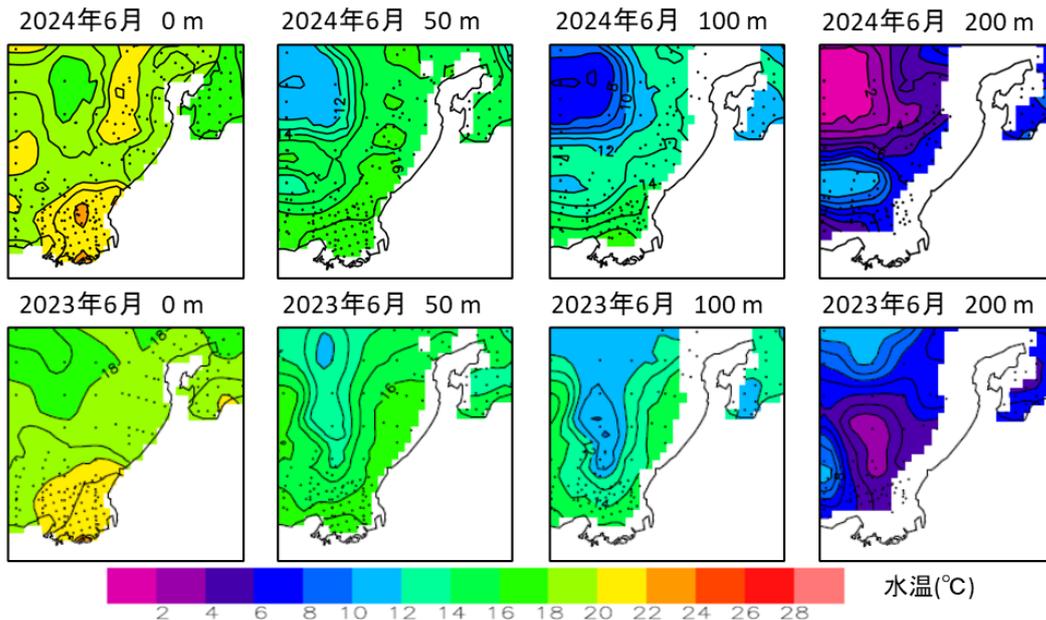


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 梶原 大郁)

## 大型クラゲ情報

本年度は6月24日に対馬市で大型クラゲが確認されて以降、各地で出現が確認されており、出現数は近年と比較してかなり多い状況となっています。福井県でも7月21～23日に嶺北の定置網で入網が報告されています。今後の状況によってはさらに出現量が増加する可能性があります。

水産試験場では今後も、大型クラゲの動向を注視するとともに情報発信に努めてまいります。

(漁場環境グループ 児玉 敦也)

### 〔県内の漁模様：6月〕

2024年6月の県内の総漁獲量は1,481 tで、前年同月を458 t上回り、平年を258 t上回った。

#### 〔定置網〕

漁獲量は1,320 tで、前年同月を468 t上回った。ブリ、サバ類が大きく上回り、アジ類等が下回った。

#### 〔底びき網〕

漁獲量は49 tで、前年同月を7 t下回った。アカエビ等が下回った。

#### 〔釣り・その他〕

漁獲量は112 tで、前年同月を4 t下回った。キダイ等が上回り、タコ類、スルメイカ等が下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(6月)

定置網	(kg)				
魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
イワシ類	24,950	7,760	8,402	17,190	16,548
(マイワシ)	3,100	90	1,375	3,010	1,725
(カタクチイワシ)	21,200	7,320	6,654	13,880	14,546
アジ類	71,097	106,935	128,820	-35,838	-57,723
(アジ)	65,074	83,310	88,915	-18,236	-23,841
(アオアジ)	4,982	10,102	3,903	-5,120	1,079
サバ類	125,520	56,275	76,548	69,245	48,972
(サバ)	102,125	49,457	55,024	52,668	47,101
(ピンサバ)	23,395	6,818	21,524	16,577	1,871
マグロ類	6,134	1,084	3,506	5,050	2,628
カツオ類	11,114	1,616	2,717	9,497	8,397
ブリ類	922,868	530,471	327,267	392,397	595,600
(ブリ)	821,641	476,967	146,497	344,674	675,145
(ツバス)	98,872	45,864	129,011	53,008	-30,138
ヒラマサ	9,075	750	5,701	8,325	3,374
サワラ	78,111	34,885	167,732	43,226	-89,621
トビウオ	40,238	62,475	127,948	-22,238	-87,710
タイ類	6,608	8,336	9,414	-1,728	-2,806
(マダイ)	3,477	4,454	6,408	-978	-2,931
(その他タイ)	3,108	3,877	2,633	-769	475
クロダイ	1,155	1,185	1,229	-29	-74
スズキ	4,559	7,700	9,761	-3,142	-5,203
ヒラメ	611	360	878	252	-267
カマス	2,192	1,363	3,964	828	-1,773
フグ類	3,092	1,655	4,360	1,437	-1,268
アオリイカ	1,914	1,571	1,227	343	687
ケンサキイカ	3,197	10,719	18,820	-7,522	-15,623
その他	7,604	16,414	26,712	-8,810	-19,108
合計	1,320,038	851,554	925,005	468,484	395,032

底びき網	(kg)				
魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
アカエビ	44,196	46,582	39,277	-2,386	4,919
その他エビ	4,221	5,165	2,989	-944	1,232
その他	637	4,286	10,676	-3,649	-10,039
合計	49,054	56,033	52,942	-6,979	-3,888

釣り、延縄、さし網、その他の漁法	(kg)				
魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
タイ類	12,954	9,157	8,712	3,797	4,241
(マダイ)	1,154	629	1,530	525	-376
(キダイ)	11,524	8,176	6,932	3,348	4,592
アマダイ	4,248	4,086	3,410	162	838
メバル類	1,569	1,189	2,480	380	-911
スルメイカ	26,680	30,364	134,220	-3,684	-107,540
タコ類	25,847	32,340	31,478	-6,493	-5,630
カワハギ類	1,234	1,764	3,871	-530	-2,636
バイ貝	3,637	1,871	1,366	1,766	2,271
アワビ類	1,347	1,968	2,639	-621	-1,291
サザエ	9,895	10,800	17,622	-905	-7,727
藻類	3,831	6,812	8,318	-2,981	-4,487
その他	21,330	16,258	31,137	5,072	-9,807
合計	112,297	116,258	245,002	-3,961	-132,705

全漁法	(kg)				
	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
合計	1,481,389	1,023,845	1,222,950	457,544	258,439

※1 平年の値は2014-2023年の10年平均です。 ※2 ( )は銘柄、その他タイはマダイ、チダイ、キダイ以外のタイ類です。その他エビはアカエビ以外のエビ類です。  
 ※3 バイ貝の平年値は2015-2023年の9年平均です。 ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

### 〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：6月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：6月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：6月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：6月中旬～7月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…マサバ209 t、マアジ129 t、ブリ59 t、フグ類47 t、フクラギ26 t、サワラ・サゴシ21 t  
 京都府…定置網…混じり(マイワシ・カタクチ等)377 t、ブリ95 t、サワラ81 t、サバ類66 t、マアジ50 t  
 兵庫県…定置網…アジ8,188 kg、マサバ6,319 kg、スズキ2,453 kg、ケンサキイカ1,692 kg ヒラマサ1,572 kg  
 鳥取県…まき網…マサバ7,121 t、ウルメイワシ914 t、マアジ261 t、マイワシ47 t、ブリ類35 t

(漁場環境グループ 矢倉 卓磨)

## 2024年スルメイカ長期漁況予報

**福井県スルメイカの漁模様** 今年の6月のイカ釣り漁法による漁獲量は27 tと前年(31 t, 対前年比88%)および平年(2014-2023年の10年平均)(141 t, 対平年比19%)を下回った。

**日本海スルメイカの今後の見通し** 西部日本海海域では10月以降に沖合から南下する群が漁獲の主対象となる。しかし、近年(2019年~2023年)は10月~12月の南下群の来遊が少なく、漁場が形成されにくい。10月以降の来遊量の目安となる本年のいか釣り調査における全調査点の平均CPUE(CPUE:釣り機1台1時間あたりの釣獲尾数)は、前年および近年平均を下回った。以上のことから、本予報期間全体での本海域全体の来遊量としては、前年および近年平均を下回ると予測される。

(水産研究・教育機構 2024年度日本海スルメイカ長期漁況予報より抜粋)

### 2024年度スルメイカ漁場一斉調査の結果について

日本海側の各試験研究機関によるスルメイカ漁場一斉調査が、6月下旬に行われましたので、その結果についてお知らせします。

#### (1) 福井県の調査結果(表1)

福井県沖合の4定点(図1)において、自動釣り機6台を用いて毎晩20時~4時の8時間釣獲試験を実施しました。

- 釣獲結果…総釣獲尾数は、24尾(2023年:30尾)、CPUEは0.03~0.31尾、平均0.13尾でした。
- 体長組成…釣獲されたスルメイカの外套背長(胴部の長さ)は9cm~24cmでした。
- 漁場水温…釣獲海域の表面水温は22.5~23.0(2023年:22.5~23.6℃)、50m深水温は10.9~17.4℃(同:13.1~17.4℃)でした。

表1: 調査点およびスルメイカ釣獲調査結果

月日	6月25日	6月26日	6月27日	6月28日
調査定点	2	10	14	16
調査開始位置	N36° 18' E135° 01'	N37° 40' E135° 39'	N36° 59' E135° 40'	N36° 19' E135° 41'
調査終了位置	N36° 18' E135° 06'	N37° 40' E135° 42'	N37° 00' E135° 37'	N36° 17' E135° 45'
釣獲匹数	2	6	1	15
CPUE	0.04	0.13	0.03	0.31
平均外套背長(cm)	—	17.9	—	19.4
表面水温(℃)	22.5	23.0	22.7	23.0
50m深水温(℃)	17.4	12.0	10.9	16.8
標識放流匹数(匹)	0	0	0	0

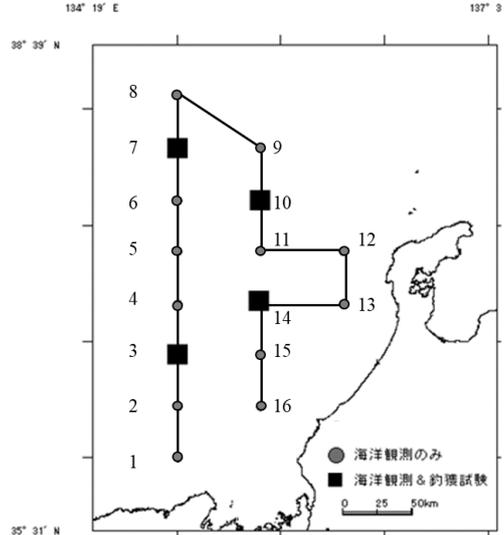


図1: スルメイカ釣獲調査点

2024年調査は悪天候により、調査定点を3から2へ、7から16へ変更した。

#### (2) 日本海全体の状況(図2)

水産研究・教育機構によると、日本海全体の全調査点における平均CPUEは0.38尾で、前年(0.49尾)および近年平均(5.95尾)を下回り過去最低となった。漁獲の主体は外套背長(外套膜の長さ)が14cm台の小型の個体で、前年(19cm台)より小さかったことが明らかになりました。

道北~道央海域の平均CPUEは0.16尾で、前年(0.57尾)の29%、近年平均(11.2尾)の1%でした。

道南・津軽海域の平均CPUEは0.12尾で、前年(0.07尾)の177%、近年平均(0.85尾)の14%でした。

本州北部日本海海域の平均 CPUE は 0.22 尾で、前年 (0.66 尾) の 34%、近年平均 (2.95 尾) の 7% でした。

西部日本海海域の調査 CPUE は最大で 7.85 尾、次いで 1.79 尾であり、それ以外の調査点はいずれも 0.4 尾未満でした。本海域での調査の平均 CPUE は 1.52 尾で、前年 (0.87 尾) の 175%、近年平均 (7.29 尾) の 21% でした。

沖合域での平均 CPUE は 0.20 尾で、前年 (0.39 尾) の 50%、近年平均 (6.84 尾) の 3% でした。

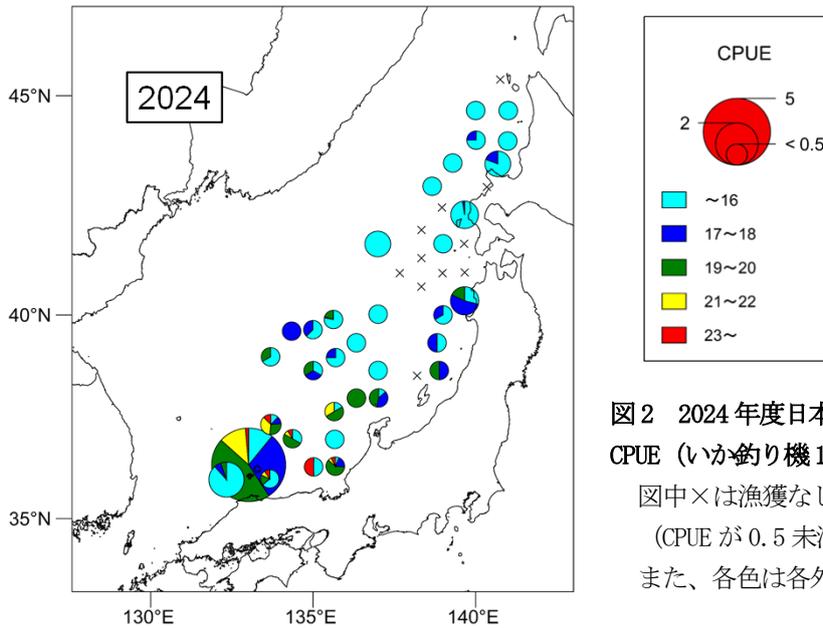


図2 2024年度日本海スルメイカ漁場一斉調査における CPUE (いか釣り機1台1時間当たりの漁獲尾数) の分布

図中×は漁獲なし、●の面積は CPUE を示す。

(CPUE が 0.5 未満の点については●の面積を最小とした)。

また、各色は各外套背長範囲(cm 台)の比率を示す。

今回の調査では、各試験研究機関でスルメイカの標識放流を実施しています。

標識の付いたスルメイカを再捕されましたら海洋資源研究センターまでご連絡をお願いいたします。

## 2024年におけるブリの記録的豊漁について

本年の5月から6月にかけて本県ではブリが記録的豊漁となりました。そこで、本稿では定置網漁業によるブリの漁模様と、近年の資源量について紹介します。

※ここでは、ぶり、はまちといった銘柄（いわゆる、出世によって変わる呼び名）を指す場合は「ブリ銘柄」、銘柄全体（生物種の和名）を指す場合は「ブリ」と表記しています。

### 県内におけるブリの漁模様

2024年5月から6月の2か月間で本県全域の定置網で漁獲されたブリは1,738 t（前年比162%、平年比185%）でした。統計を開始した1992年以降では2014年の2,367 tに次いで2番目に漁獲量が多くなりました。銘柄別に見ると、2024年においてはブリ銘柄の割合が多く、1,286 t（ブリ漁獲量比74%、平年比381%）がブリ銘柄でした。（図3）。ブリ銘柄の漁獲量は、1992年以降で過去最多となりました。

市場別に見ると、5月から6月上旬にかけては嶺南～南越前町を中心に漁獲され、6月中旬以降は敦賀市～嶺北を中心に漁獲されました（図4）。また、県内全域のブリ銘柄の漁獲量は6月2週目（6月10日～16日）がピークとなり、この週のみで294 tが漁獲されました。

### ブリの生態と資源量について

成熟した大型のブリは、越冬のために11月～1月にかけて北日本から能登半島以西へ南下し、2月～5月に産卵して、夏季に北日本へ北上します。本県では例年5月～6月に北上する個体が来遊するため、この時期に漁獲量が多くなります。

また、近年ではブリの資源量が増加していることが報告されています。特に2012年頃からブリ銘柄に相当する3歳魚以上の個体が増加して資源が高水準で維持されていることが本年の5月から6月にかけての記録的な豊漁に繋がったと推察されます（図5）。当センターは、水産資源を安定的かつ継続的に利用していくために、今後も漁獲量や資源量の変動に注目していきます。

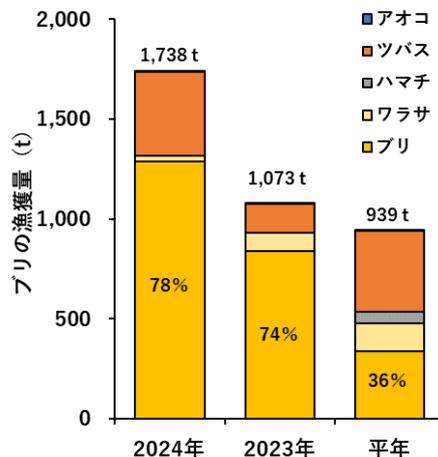


図3：5月から6月の定置網におけるブリの漁獲量

平年は、2014年-2023年の10年平均を示す。グラフ内の%表記は、ブリの漁獲量におけるブリ銘柄の割合を示す。

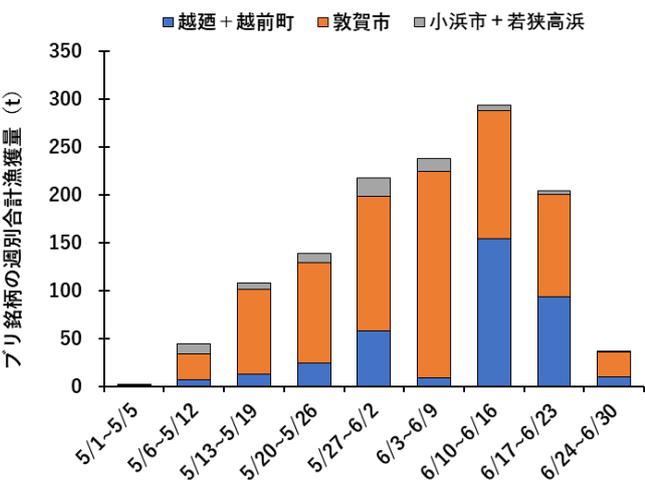


図4：5月から6月のブリ銘柄の市場別週別合計漁獲量

市場名は各漁連、漁協を示す。各市場における一週間（横軸）の合計漁獲量を示した。

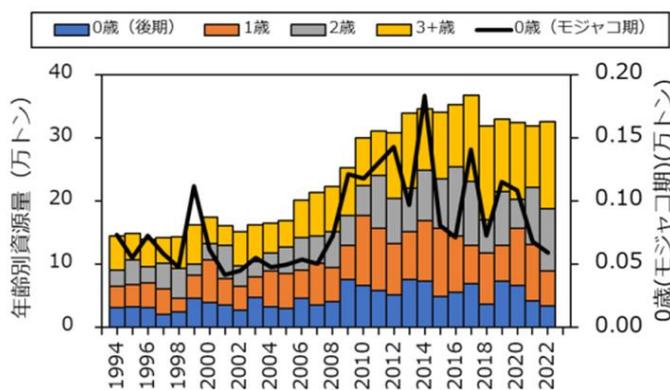


図5：ブリの年齢別資源量

（水産研究・教育機構 令和5年度魚種別資源評価より引用）ブリ銘柄を含む3歳魚以上の資源（黄色）が増えている。

（漁場環境グループ 矢倉 卓磨）